

6月は、環境月間です！

環境問題が発生しやすい季節となりました。
ふん尿処理等を適切に行わないと悪臭や水質汚濁等の苦情が増えます。
地域と調和した経営を継続するために環境対策の再点検を行いましょう！

①臭気対策は大丈夫ですか？

- ◆ 家畜から排せつされたふん尿は、そのまま堆積すると嫌気的な状態（空気にさらされていない状態）となり、悪臭が発生します。糞尿は速やかに切り返しなどを行い空気に十分触れさせた好気発酵を行うと悪臭が少なくなり、良質な堆肥が生産できます。
- ◆ 堆肥の切り返しや散布は、時間や天候、風向きなどを考慮して行いましょう。
- ◆ 除糞や畜舎及び畜舎周辺の清掃を励行し、臭気の原因抑制に努めましょう。



②ハエの発生対策はできていますか？

- ◆ 食べこぼしやこぼれた糞などは、ハエ（ウジ）の発生源となります。
また、サシバエ等の発生は、家畜のストレスとなるだけでなく家畜伝染病を伝播します。
- ◆ 畜舎の隅、飼槽、給水器の下、床の隅などは念入りに掃除、除糞を行いましょう。
- ◆ 定期的に殺虫剤を散布しましょう。
散布する場合は、適切な用法・用量で散布し、使用記録を付けてください。



③河川等を汚染していませんか？

- ◆ 畜舎、堆肥舎等から堆肥や汚水が流出していませんか。排水処理施設の点検と整備を行い、堆肥は、滞留させず速やかに利用、流通しましょう。
- ◆ 堆肥運搬車両には堆肥がこぼれないように、シートをかぶせるなどの対策をしましょう。



- ◆ 家畜排せつ物法により、牛・馬10頭以上、豚100頭以上、鶏2000羽以上の飼養者は家畜排せつ物を処理施設で管理することが義務付けられています。
- ◆ 家畜排せつ物の年間の発生量、処理方法・数量を記録しましょう。

（別紙参照）

京都府南丹家畜保健衛生所

TEL:0771-42-3308 FAX:0771-42-5117